

令和4年度 学校評価 自己評価書(1学期)
(教職員18人, 生徒165人, 保護者82人)

4:よくできている 3:できている 2:ややできていない 1:できていない

学校教育目標 「志や誇りをもち、心豊かにたくましく未来を切り拓く生徒の育成」

1 「志や誇り」

- (生徒) 将来を意識した生活については平均値2.95と保護者に比べれば高いが、学年が下がるに従って値は低かった。地域・家庭の手伝いなど貢献度において低い値(2.79)が見られた。
- (保護者) 体験活動や身の回りの人との関わりを積極的に推進しているかの項目が低く、家庭での手伝いや地域の活動への参加などについての家庭での平均2.58と低かった。
- (教職員) 進路・キャリア教育においては高い意識をもって取り組んでいる(平均値3.25)。一方地域や国際理解教育については生徒保護者同様、値が低かった。

→ 過去のデータでも、保護者・学校ともに将来のことや進路についてなど、キャリア教育に関しては低く出る傾向がある。学校におけるキャリア教育の内容やその様子を発信するとともに、家庭でももらいたい進路学習や体験活動などを紹介することが必要ではないか。

2 「心豊かに」

- (生徒) あいさつの項目、いじめの項目の数値が高く、意識がなされている(あいさつ3.1, いじめ3.51)。一方で人権に関する意識、ボランティアに対する意識、読書に対する意識が低い結果であった。
- (保護者) いじめの項目、あいさつの項目、他者への人権の大切さに関する項目はそれぞれ高かった。最も低かったのが家庭における読書の推進で、すべての項目の中で最も低い。生徒との意識の差があるため、生徒の読書の様子に気付いていない可能性がある。
- (教職員) 親和的でまとまりのある集団作りと同項目が保護者の「自他の行いや良さに気づかせる」という項目だが、職員は3.2と高い中、保護者は2.55、生徒は2.88と乖離が見られる。前半の「ボランティア活動の推進」の表現に保護者・生徒も引っ張られて低く出ているのではないか。

→ 「心豊かに」の項目では全体的な読書の推進が課題であると言える。生徒は読んでいるように見受けられるので、そのことを認め、励ましたり、保護者自身のおすすめなどを家庭で伝えていただくように啓発する必要があると感じる。

3 「たくましく」

- (生徒) 規則正しい生活とストレスマネジメントが2.7ポイントと低く出ている。ストレスの対処法が分からないという1・2を回答している生徒も多い。規則正しい生活に関しては具体的に起床・就寝のことなのか、朝ご飯など食事面か、さらには時間の使い方なのか、など詳しく知る必要があると感じる。
- (保護者) コロナ対策については十分高い結果が得られた。一方で規則正しい生活では生徒との間に0.25ポイントの乖離が見られる。生徒の自己申告に対して、気付いていない保護者がいる可能性があるので知らせていくことが必要である。また、保健面や薬物乱用、メディアの使い方の指導などについては、保護者の指導にも困り感がある可能性がある。
- (教職員) 安全面全般の値は高く出ているが、ストレスマネジメントや体力作りの指導において低い結果であった。生徒のメディアの使い方についての高評価と職員の低評価の乖離が大きい。

→ 「たくましく」の項目では、全体的にストレスマネジメントの指導や言葉かけが課題である。ストマネの方法論の研修が必要ではないか。また、メディアの使い方については、通信やPTA時の共通理解や啓発が必要ではないか。

4 「未来を切り拓く力」

- (生徒) 自ら学ぼうとする姿勢を高く自己評価している生徒が多い。分からなかったことを個別最適な方法で解決しようとする事ができる生徒が多い。予習・授業・復習のサイクルを確立させているかという項目は保護者ともに低かった。
- (保護者) 学習に関する項目はいずれも3ポイントを上回ることが多く、保護者としては意識が高いようである。予習・授業・復習のサイクルを確立させようと促すことが課題である。
- (教職員) どの項目も「よくできている」と解答することが多い。生徒・保護者との間で「予習・授業・復習サイクルの確立」の意識が乖離していることが課題である。

→ 「未来を切り拓く力」の項目では、全般的に高評価であるが、学校評価の文章解答にもあったように、予習・授業・復習のシステムを確立させるという共通認識において、職員全体で話し合う必要がある。